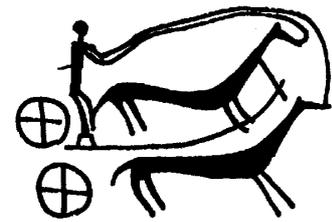


センターニュース

Hokkaido University
Center for Research and Development in Higher Education

北海道大学高等教育機能開発総合センター

Newsletter No. 54



成績評価分布の公表

(6ページ)

客員教授に教育工学専攻のコマースさん着任

(9ページ)

オープンユニバーシティ・体験入学

(10ページ)

(詳しい目次は裏表紙にあります)

巻頭言

FOREWORD

平成18年度以降の教育課程について

国際広報メディア研究科教授 大平 具彦

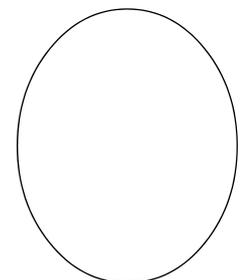
教育課程専門部会は、昨年(平成15年)7月に、教務委員会の教育戦略推進WGのもとに設置され、平成18年度以降の教育課程について検討を進めてきましたが、4月に中間報告をまとめ、教務委員会に提出いたしました。

この中間報告は、現在、新しく教育改革室のもとに置かれた「平成18年度以降の教育課程検討WG」(座長：安藤厚 文学研究科教授・教育改革室役員補佐)において審議されております。北大の今後の教育に深く係わることでありますので、全学的にその内容を知っていただきたく、以下に中間報告の概要をお伝えいたします。

今回新たに教育課程を改訂せねばならない理由は、

「平成11年告示学習指導要領」によって高校で教育を受けた学生が、平成18年度から新入生として入学してくるからです。この「平成11年告示学習指導要領」は、従来までの学習指導要領

に比べ、学習内容がかなりの量において(3分の1程度と言われる)削減されており、その影響が大学教育にも大きく及ぶことが予想されます。こうしたことから、しばらく前より、この新学習指導要領問題は、これによって高校教育を受けた学生が大学に入学してくる2006年(平成18年)にちなんで、「2006年問題」と称されてきました。すなわち、「平成18年度以降の



教育課程について」の検討とは、こうした新学習指導要領に合わせて、大学としてどういうカリキュラム（「教育課程」）を用意するかという問題であるわけです。

今回のカリキュラム策定にあたっての基本的な考えは以下の通りです。

（１）新学習指導要領（2006年問題）を、学生の学力の多様化と捉えること

新学習指導要領において、学習内容が3分の1程度削減されるということであれば、学力がこれまでよりも相対的に低い学生が入学してくることを想定せざるを得ません。一方、新学習指導要領では、高校によっては、指導要領を超えて発展的な学習内容を補充してもよいことになっており、進学校では従来の学習内容が維持されることも考えられます。これらの点から帰結されることは、18年度の入学生からは、学生の学力が現在以上に多様化するであろうということです。

（２）基礎的学力の育成と学力段階別ステップアップ授業方式の導入

学力が多様化する場合、しかも新入生が従来に比べ3分の2程度の学力で入学してくることが想定される場合、先ずもって重要なのは、基礎的学力の育成です。

また、学生の学力が多様化してゆく状況にあっては、従来までのようなひとかたまりの画一的授業展開では教育効果はあまり期待できず、これに対応するには、学生が学力・能力に応じて段階的にステップアップしてゆく授業形態を体系的に導入する必要があります。

（３）以上の仕組みを現行コアカリキュラムに盛り込むこと

現行コアカリキュラムは、北大の全学教育のあるべき方向性を示していると同時に、「進化するコアカリキュラム」として、「シンプルな構造」の中に「多様な新機軸の科目の開発」が内包されていると考えられます。上記（１）（２）の教育内容は、カリキュラムの継続性の上からも、現行コアカリキュ

ラムに組み込むのが最も合理的です。

（４）各学期毎に履修単位の上限を設けるなど、単位の実質化、授業の高品質化を図る

現在の学生たちの授業履修状況について、早めに必要単位を取ろうとして時間割が過密化し、予習復習が追いつかず授業が未消化になっている点は、以前から指摘されてきました。基礎学力の育成が今後ますます重要となってゆく状況にあって、授業の高品質化と単位の実質化を図るためには、各学期毎に履修単位の上限を是非とも設けるべきと考えます。

（５）2006年問題は、最終的には、学部卒業時の学力レベルを、各学部がどこに設定するかという問題であること

2006年問題において最も肝要なのは、従来に比して学習内容が削減されて入学してくる学生に対し、学部一貫教育システムの中で、全学教育と学部専門教育がどう有機的な連関のもとに設計されるかという点です。各学部において、今回の新しい全学教育カリキュラム案の中から学部にあふさわしい教育プログラムを作成し、それを踏まえて併せて学部専門教育のプログラムの新たな検討へと繋げられるよう要請いたします。

本専門部会では、以上の考えに立って平成18年度からのカリキュラム案の策定を進めました。改正を含め、その主な点を以下に紹介いたします。

A．文系科目

- ・基礎学力育成のための「論文指導」，「一般教育演習」の整備・充実。
- ・「文系基礎科目」を新たに設ける。
- ・複合科目の中に、文系共通基礎的な授業科目を設ける。

B．理系科目

- ・分野別科目〔論文指導〕，複合科目，一般教育演習〔論文指導〕において、基礎学力育成の充実をはかる。
- ・基礎科目を共通化，体系化して、入門レベルから中級・上級レベルまで、学力別ステップアップ授業方式を導入する。すなわち、図1に示すように

数学および物理学・化学・生物・地学の理科4科目については、以下のように、第1水準から第3水準までの科目を設ける。

？第1水準：入門科目

？第2水準：専門系コースと準専門系コースに分け、専門系コースでは下記の「互換性科目」との組み合わせで完結する内容の授業科目。準専門系コースでは4単位で完結する内容の授業科目。

？第3水準：各学部・系・学科が、第2水準の専門系必修科目との重複を避けて用意する「互換性科目」。

- ・物理学・化学・生物・地学の実験科目については、新たなコンセプトのもとに、それぞれの科目に特別の科目責任者を指定し、TAなどを組み込んだ実効的な実施体制を確立しつつ、新しい教育科目を設定する。

C．外国語科目

- ・図2に示すように英語および他の外国語において、

CALLシステムを活用しつつ、基礎（入門）レベルから上級レベルまでの、学力段階・技能別のステップアップ授業方式を導入する。

- ・上記のレベル別授業の上級クラスと、現在各学部で展開されている専門英語等の授業との間で単位を相互に算入できるようにし、より統合的なカリキュラムをめざす。
- ・大学院共通授業科目に、外国語によって行なわれる授業やディベート能力育成の授業などを開講し、大学院教育に必要な高度な外国語運用能力の養成を図る。

D．共通科目

- ・共通科目に関しては現行の枠組みを維持する。
- ・なお、情報教育については、新学習指導要領で高校段階に新たな教科目「情報」が設けられた関係で、大学としてどういう教科内容にするか、目下検討中。

図1 コアカリキュラムおよび専門基礎カリキュラムのフローチャート

図2 英語新カリキュラム案の全体像

以上、中間報告の概要についてお知らせいたしました。今後、教育改革室のもとに新たに置かれた教育検討WGのもとで、各部局との協議を経ながら、

年度内の成案をめざして審議検討が進められてゆく予定です。

(教務委員会 教育戦略推進WG 教育課程専門部会座長)

全学教育

GENERAL EDUCATION

全学教育委員会報告

4月23日(金)に第55回(平成16年度第1回)全学教育委員会が開催され、つぎのような議題について話し合いました。

議題1. 全学教育委員会小委員会の構成

議題2. 学生問題担当委員の選出

議題3. 平成16年度全学教育委員会の検討事項

報告事項1. 附属図書館北分館委員

報告事項2. クラス担任のオフィスアワー

議題1, 2, 報告事項1では、各委員がつぎのように決まりました。

全学教育委員会小委員会委員: 安藤厚(文学研究科, センター長補佐, 委員長), 在田一則(理学研究科, センター長補佐), 佐々木隆生(経済学研究科, センター長補佐), 南部(文学研究科),

河口明人（教育学研究科），小野寺彰（理学研究科），前沢政次（医学研究科），恒川昌美（工学研究科），宮下雅年（言語文化部）

学生問題担当委員：今井弘道（法学研究科），増田税（農学研究科）

附属図書館北分館委員：川浪雅光（歯学研究科）
小島廣光（経済学研究科）

議題3では，平成16年度全学教育委員会の検討事項（案）について，佐伯委員長，安藤センター長補佐から説明があり，質疑のあと，今後各項目について小委員会で検討することになりました。

平成16年度全学教育委員会の検討事項

<カリキュラムの充実>

1. 全学教育科目の充実について
 - (1) コアカリキュラムを基にした授業計画
 - (2) 履修調整
 - (3) 開講時間帯の見直し
 - (4) 学部との連携
 - (5) 履修登録の上限設定の検討
2. 全学教育支援体制の構築について
 - (1) 科目責任者会議の運営
 - (2) 責任部局の「責任コマ数」，基礎科目等に対する「全学支援」，一般教育演習・複合科目の「全学協力」
3. シラバスの在り方について
 - (1) 内容の充実
 - (2) シラバス検索・入力作業等に関する改善事項
 - (3) シラバスのペーパーレス化
 - (4) 教務情報システムとシラバスデータの共通化

<施設・設備の整備>

4. 全学教育における施設・設備の充実について
 - (1) S講義棟，N1，N2講義室，大講堂への渡り廊下室，S教官棟の整備・充実

- (2) 視聴覚機材（OHP,資料提示装置等）の整備
 - (3) 新基礎科目パイロット授業のための施設・設備の充実
5. 履修指導について
 - (1) 全学教育科目の履修指導
 - (2) クラス担任による指導
 - (3) 履修相談，オフィスアワー，クラスアワーの充実
 - (4) 個別指導の強化

<成績評価>

6. 「成績評価基準の明示と厳格な成績評価の実施について」の通知に係わる課題について（2．(1)科目責任者会議の運営，3．シラバスの在り方との関係）
 - (1) 成績評価基準の明示
 - (2) 成績評価基準の設定
 - (3) 成績評価結果の公表
 - (4) 成績評価の妥当性の検討
 - (5) 学業成績評価の意味について学生への周知徹底
7. 流用定員解消に伴う全学教育について
8. 医学部保健学科設置に伴う全学教育について
9. 全学教育における非常勤講師任用について
10. 「2006年問題」への対応について
 - (1) 理系基礎科目の見直し
 - (2) 情報科目の見直し
11. 外国語教育について
12. 高大連携授業について
13. 追試験について
14. TAの在り方について
15. キャリア形成について
16. 「学生による授業評価アンケート」結果の利用方法について
17. 新教務情報システムに係わる要望事項について（安藤厚 文学研究科教授・センター長補佐）

成績評価分布状況の公表および 極端な片寄りのチェックについて

教務委員会からの「成績評価基準の明示と厳格な成績評価の実施について」の通知に基づいて、全学教育科目の成績評価分布状況（授業科目・教員別の優・良・可・不可の%の一覧表）を、15年度第1学期分については3月末、15年度第2学期分については6月中旬に、本センターにおいて、掲示と冊子で公表しました。

また、科目別の平均値を本学ホームページに公表

しました。

http://infosys3.academic.hokudai.ac.jp/zengaku/2004_1.html

成績評価の極端な片寄りについては、小委員会の下に成績評価・授業評価結果検討専門部会を設け、公表された成績評価分布状況に基づいて検討し、必要な場合には関係の教員に事情を照会しています。

（全学教育委員会小委員会）

高等教育

HIGHER EDUCATION

グループ討論でケーススタディ 新任教員研修会行われる

6月3日（木）に、情報教育館3階スタジオ型多目的中講義室において平成16年度の新任教員研修会が行われました。プログラムは表1の通りです。対象者153名のうち103名（67.3%）が参加しました。

午前の部では、中村睦男総長の挨拶ののち安藤厚センター長補佐がミニ講義で、北海道大学の教育について全学教育を中心に解説し、学生アンケートに触れ学生がどういう意見・要望を持っているかを紹介しました。次に、林忠行役員補佐が法人化によって北海道大学はどのように変わるのかという話題に関して講演しました。休憩後に、浅海英則財務部主計課課長補佐が会計事務について説明し、細川敏幸センター助教授がグループ討論の方法について解説し、そのあと参加者は8グループに分かれ討論室に移動して、役割分担や自己紹介などを行い午後のグループ討論のためのウォーミングアップをしました。

大学生の心のケアについて

午後の部では、朝倉聡保健管理センター講師が「大学生の心のケアについて」というミニ講義で、精神衛生相談室を訪れる学生の数が近年増加していること、大学生がどのようにして心を病むのか、大学生が心を病まないようにするには何ができるのかということについて話し、日頃からのコミュニケーション・人間関係の重要性を指摘し、いざという場合に学内で利用できる施設の紹介をしました。

次のグループ討論では、討論課題として

テーマ1：「女子学生を含む教室の学生とコンパに行った。起こりうる問題を想定し、具体的な対応の仕方を検討してください。」

テーマ2：「卒業研究を始める時期に急に学生が大学に来なくなった。具体的な対応の仕方を検討して

ください。」

テーマ3：「ある学生は授業中の態度がきわめて悪く友達もいない様子である。しかし良くできる学生のようなのである。このような学生にどのように対処すべきか考えてください。」

テーマ4：「レポートを書かせると良く書くが、決して発言しないクラスがある。どのように対処すべきか考えてください。」

のように、4つのケースを取り上げ、それぞれ2グループずつが討論しました。今年はグループ討論の参加者が今までに比べて多数(67名)あり大いに盛り上がりました。

グループ討論ののち、3階スタジオ型多目的中講義室に戻って、グループ討論の成果を中心にパネル討論を行いました。

事後アンケート

参加者に対するアンケートでは、

- ・FD なかなか良いと思います。今後も「新任」に限

らず、ベテランの先生とのコミュニケーションも期待します。教育・研究に携わる者同士、別の畑から集まればより幅の広い議論ができることを実感しました。FDに限らず、大学教育に関してはアンケート形式だけでなく、学生とディスカッションする場を作って教員と学生が共に作る授業があってもいいのではないかと思います。初めはめんどくさい会だと思いましたが、大変良かったです。今後、定期的を開催してもいいのではないかと思います。大学教員はほとんどが研究者出身であるので、「教育原理」のような小中高校教員養成のプログラムを経験してもらいたいと思います(少し話がズレてしまいました。)

- ・長すぎる。講義・講演の内容は参考になったが、文書で配布すればすむ。新任教員も教育・研究の時間を犠牲にして参加しているのであるから、センター側ももう少し配慮がほしい。のような意見がありました。

表1 新任教官研修会プログラム

日時:2004年6月3日(木)午前9時30分～午後3時00分
会場:情報教育館3Fスタジオ型多目的中講義室

<プログラム>

----- 午前の部 -----

9:30 ~ 9:35

挨拶

中村睦男(総長)

9:35 ~ 10:05

ミニ講義:「北海道大学の教育～全学教育を中心に」
安藤 厚(文学研究科教授,センター長補佐)

10:05 ~ 10:45

講演:「法人化によって北海道大学は
どのように変わるか?」

林 忠行(スラブ研究センター教授,役員補佐)

11:00 ~ 11:20

「北海道大学における会計事務の取り扱いについて」
浅海英則(財務部主計課課長補佐)

11:20 ~ 11:45

「グループ討論の方法について」

細川敏幸(高等教育機能開発総合センター助教授)

11:45 ~ 12:00

グループ討論の打ち合わせ

----- 午後の部 -----

13:00 ~ 13:20

ミニ講義「大学生の心のケアについて」
朝倉 聡(保健管理センター講師)

13:20 ~ 15:00

グループ討論およびパネル討論
(修学指導,セクシャルハラスメント,
双方向的な授業などについて)

司 会:

小笠原正明(高等教育機能開発総合センター教授)

パネリスト:各グループのリーダー

コメンテーター:

安藤 厚(文学研究科教授,センター長補佐)

在田一則(理学研究科教授,センター長補佐)

15:00 散会

表2 平成16年度高等教育開発研究部研究員名簿

33名(学内 31名)

氏名	所属	専門分野	研究テーマ	区分
新田 孝彦	文学研究科教授	倫理学	17カリキュラムにおけるSTS(科学・技術・社会)科目の研究	継続
栃内 新	理学研究科助教授	免疫発生学	"	"
原島 秀吉	薬学研究科教授	薬剤学・製剤学	"	"
佐伯 昇	工学研究科教授	コンクリート工学	"	"
恒川 昌美	"	資源処理学	"	"
服部 昭仁	農学研究科教授	食肉利用学	"	"
瀬名波栄潤	文学研究科助教授	英文学	TA研修の在り方に関する研究	"
和順	"	中国古代思想	"	"
栗原 秀幸	水産科学研究科助教授	水産化学	"	"
奥 聡	言語文化部助教授	統語論	"	"
猪上 徳雄	水産科学研究科教授	食品加工・貯蔵	"	"
小野寺 彰	理学研究科教授	結晶物理・相転移	大学における初習理科の研究	"
佐々木陽一	"	錯体化学	"	"
日夏 幸雄	"	無機化学	"	"
鈴木 孝紀	"	構造有機化学	"	"
鈴木 久男	理学研究科助教授	素粒子物理学	"	"
栃内 新	"	免疫発生学	"	"
在田 一則	理学研究科教授	構造地質学	"	"
新井田清信	理学研究科助教授	岩石学	"	"
中村 博	地球環境科学研究科教授	分析化学	"	"
中戸川孝治	文学研究科教授	論理学・数理哲学	情報教養教育に関する研究	新規
木村 俊一	経済学研究科教授	情報学・金融工学	"	継続
櫻井恒太郎	医学研究科教授	医療情報学	"	"
三上 隆	工学研究科教授	数値計算力学	"	"
大内 東	"	複雑調和系工学	"	"
北島 秀夫	"	メディア情報学	"	"
栗原 正仁	"	人工知能	"	"
村井 哲也	工学研究科助教授	知識情報処理	"	"
片岡 崇	農学研究科助教授	生物生産機械	"	"
河合 剛	言語文化部助教授	自然言語処理	"	"

客員教授にコマースさん着任

本年度の客員研究員として、オランダ・トゥエンテ大学行動科学科・助教授（トゥエンテ大学教育学部副学科長）のP.A.M.コマース(Kommers)氏が着任しました。コマース氏の専門領域は教育工学、マルチメディアデザインなどで、国際的な教育改革プロジェクトに参加してきました。その功績から、ユネスコおよび中国の大学から名誉教授が与えられてい

ます。同氏は、本研究部との共同研究「ITを利用した将来の学習形態の研究」に参加し、同国におけるITを利用した学習形態研究の経験をもとに共同研究を行う予定で、8月中旬まで滞在します。着任中に2回の講演を予定していますので、ふるってご参加下さい。

写真1
歓迎会でバイオリン
を披露するコマース
博士

北大で大学教育学会第26回大会

大学教育学会の第26回大会が、去る6月12日（土）と13日（日）の2日間、高等教育教育機能開発総合センターの大講堂を中心会場として行われました。大学教育学会は、個人会員805人、団体会員226団体を擁するわが国の高等教育分野における最大の学会（会長は桜美林大学長の佐藤東洋士氏）。北海道で大会が開かれるのは、1995年の札幌大学以来9年ぶりのことで、今回全国各地から330名もの参加者がありました。

大会の総合テーマは、「大学教育の接続と連携 いつでも、どこでも、誰でも学べる」と設定され、これにちなんで12日に「大学教育の接続」、13日に「大学教育の連携」というテーマでシンポジウムが行われました。初習物理の実演などを含むシンポジストの問題提起に続いて、聴衆を交えて白熱した討

論が行われました。12日の午後1時から、国立大学協会の「国立大学法人化特別委員会」のメンバーであった本学の中村睦男総長による「国立大学法人化と大学教育の新たな展開」という題の記念講演、2日目の1時から、前国際基督教大学長で、大学基準協会の「特色ある大学教育支援プログラム」の実施委員長である絹川正吉氏による「優れた大学教育とは」という題の話題提供がありました。自由研究のセッションのテーマは、以下の6つでした。

1. 教養教育（一般教育）の理念と現実
2. 自己評価・FD論
3. 初年次教育・参画型授業
4. 成績評価・外国語教育
5. 科学教育・科学技術倫理教育・情報教育
6. AO入試・高大連携・e-ラーニング

生涯学習フォーラムが開催されました

生涯学習計画研究部が主催する生涯学習フォーラム（平成16年度第1回）が去る5月13日に開催されました。

今回のフォーラムにおいては、国立教育政策研究所生涯学習政策研究部総括研究官の笹井宏益氏を招き「モンゴル国の教育改革と大学」と題して講演をいただき、これをもとに活発な意見交換を行いました。

笹井氏は、1999年11月から2000年10月にかけてモンゴル国文部省政策顧問（JICA派遣専門家）としてモンゴルの教育改革にご尽力されました。その経験をもとに、モンゴルの教育事情や今後の方向

性について、豊富な資料や写真を参照しながら、講演をしていただきました。また、参加者からはモンゴルの産業事情や大学教育の関わりなどについて数多くの質問が出されましたが、笹井氏からは統計資料だけではなく、1年間の滞在経験に基づいた貴重なコメントをいただきました。

なお、このフォーラムをもとに、5月下旬から6月上旬にかけて、生涯学習計画研究部の教員3名を含む計5名の調査団がモンゴル共和国を訪問し、モンゴルの大学と地域連携のあり方に関する調査研究を行いました。

写真2 講演をする国立教育政策研究所の笹井総括研究官

入学者選抜

ADMISSION SYSTEMS

ひろがる好奇心・あふれる可能性 オープンユニバーシティ・体験入学の冊子

2004年度北海道大学「オープンユニバーシティ」は、7月28日（水）に函館キャンパス、8月2日（月）に札幌キャンパスで開催されます。函館キャンパスは水産学部のみ、札幌キャンパスは全12学部に加え、大学院地球環境科学研究科、大学院国際広報メディア研究科、低温科学研究所、附属図書館、附属図書館北分館、情報基盤センター、アドミッションセンターが参加します。「体験入学」は、水産学部が函館キャンパスで7月29日（木）・30日（金）、10学部（教育学部は6月19日に実施）が札幌キャンパスで8月3日（火）に（学部により5日（木）まで）開催されます。

各部局で練られた企画案は、今年度は国際広報メディア研究科の大学院生の協力をえて、「ひろがる

好奇心・あふれる可能性」と題する冊子にまとめられました。冊子とポスターは、アドミッションセンターから全国1,364の高等学校（道内383校、道外981校）に送付されました。冊子の内容は、本学ホームページ（<http://www.hokudai.ac.jp/bureau/nyu/open/index.html>）で見ることができます。「オープンユニバーシティ・体験入学」は、本学の教育研究活動、施設を高校生はじめ多くの方々を知っていただき、意欲と目的意識の高い優秀な高校生を本学にひきつけるために重要な役割を果たしています。昨年度は、オープンユニバーシティと体験入学とあわせて4,400名を超える参加者がありました。お問い合わせは、北海道大学アドミッションセンター（電話：011-706-7490）にお願いします。

高校生の全学教育科目の聴講にむけて

高大連携科目に関する研究会

入学者選抜企画研究部と生涯学習計画研究部は、平成17年度以降に、本学の授業や公開講座を高校生に開放する可能性と諸問題を探ることを目的に、「高大連携科目に関する研究会」において研究をすすめています。この研究会は、「進学型普通科単位制」高等学校への移行にともない、本学の全学教育科目を「高大連携科目」として受講する可能性について札幌市立旭丘高等学校から相談を受けたことを契機に平成15年4月に発足しました。2年間にわたり、札幌市立旭丘高等学校の教員とともに、高校の教育課程改革と連携した新しい高大連携のあり方と実施方法（試行を含む）について検討します。

平成15年度は、1) 2003年度北海道大学公開講座に参加する高校生に関する調査、2) 大学入学後の

学習を重視した高大連携、3) 北海道大学の全学教育科目を活用した「高大連携科目」のあり方、などの研究課題にとり組み、高等教育機能開発総合センター運営会議で中間報告（『高大連携の新たな可能性 高大連携科目の試行にむけて』）を行いました。平成15年度第2学期に、札幌旭丘高校の教員が全学教育科目の授業を訪問・聴講し、高校生の受講に関する準備や支援体制について様々な課題が明らかになりました。

平成16年度第2学期は、札幌旭丘高校の生徒（2年生）が試行的に全学教育科目の授業を受講することになっていて、現在、研究会はその準備をすすめています。受講を希望する生徒は、札幌旭丘高校が力を入れている「総合的な学習」で2～3年次にか

けてとりくむ「個人課題研究」の学習活動の一環として受講します。試行的受講の対象となる授業は、第2学期の月曜日、水曜日、金曜日の5講時の複合

講義と一般教育演習です。札幌旭丘高校生の聴講希望がありました場合は、ぜひご協力をお願い申し上げます。

本年度の北大セミナー実施計画固まる

本研究部はアドミッションセンターと協力して、入試広報と高大連携とを目的にした講師派遣活動「北大セミナー」を道内中心に行ってきました。北大セミナーとは、大学から高校へ一方的に講師を派遣する、いわゆる出前授業とは異なり、各地域の高校からの要望や学習カリキュラムに沿うように大学と高校が実験実習や講義を創っていく高大連携活動です。

法人化を迎え、受験者の量の確保と質との向上を図ることが急務となっており、北大セミナーのように真の意味での高大連携に基づく入試広報がますます重要になってきています。本研究部およびアドミッションセンターでは、地域ごとに実施している北大セミナーの拡充と改善により、入試広報および高大連携の集約化を図っていきます。

今年の北大セミナーとして、次の通りです。

(実施地)	(日時)	(会場(高校))	(担当)
仙台	7月3日(土)	仙台第二	池田
旭川	7月20日(祝)	旭川東	鈴木
帯広	10月16日(土)	帯広柏葉	池田
釧路	10月28日(木)	釧路湖陵	鈴木
宮崎	10月30日(土)	宮崎大宮	鈴木

昨年より拡充を図り、道内3カ所、道外2カ所で実施する予定です。

なお、来年度は函館と北見、そして道外2地区での開催を計画しています。隔年で全道をカバーすること、および道外での北大セミナーを定着させることを目指します。問い合わせ先は以下の通りです。

鈴木 (makosuzu@high.hokudai.ac.jp)

池田 (fumike@high.hokudai.ac.jp)

表3 平成16年度入学者選抜企画研究部研究員名簿

24名(学内 16名)

氏名	所属・職名	専門分野	研究テーマ	区分
佐々木 隆生	経済学研究科教授	国際経済学	A O入試の選抜形態に関する研究	継続
脇田 稔	歯学研究科教授	歯の比較発生	"	"
野口 伸	農学研究科教授	生物環境情報	"	"
猪上 徳雄	水産科学研究科教授	食品加工	"	"
橋本 雄一	文学研究科助教授	地理学	I Tを用いた広報戦略研究	継続
片岡 崇	農学研究科助教授	生物生産機械	"	"
岸 道郎	水産科学研究科教授	環境モデル	"	"
姉崎 洋一	教育学研究科教授	高等教育及び生涯学習	A O入試における追跡調査についての研究	継続
(未定)	経済学研究科		"	新規
小笹 隆司	理学研究科教授	天文学	"	継続
武田 定	理学研究科教授	物性物理化学	"	"

表3 平成16年度高等教育機能開発総合センター研究員名簿(続)

氏名	所属・職名	専門分野	研究テーマ	区分
山口 淳二	理学研究科教授	植物生理・分子	A O入試における追跡調査についての研究	継続
田村 正人	歯学研究科教授	口腔生化学	"	"
川村 周三	農学研究科助教授	生物環境情報	"	"
工藤 昌行	工学研究科教授	凝固, 組織制御	"	"
猪上 徳雄	水産科学研究科教授	食品加工	"	"

(学外 8名)

氏名	所属・職名	専門分野	研究テーマ	区分
橋村 正悟郎	北海道札幌東高等学校教諭	理科教育	A O入試の選抜形態に関する研究	継続
西嶋 潤一	北海道旭川東高等学校教諭	地理歴史・公民教育	"	"
玉田 茂喜	北海道札幌北高等学校教諭	国語教育	"	"
門馬 甲兒	北海道函館東高等学校教諭	社会教育	"	"
小野寺 徹	北海道滝川高等学校教諭	社会教育	I Tを用いた広報戦略研究	継続
越後 幸弘	北海道室蘭栄高等学校教諭	理科教育	"	"
高田 淑美	函館白百合学園高等学校教諭	数学教育	"	"
山本 周男	北海道北見北斗高等学校教諭	理科教育	"	新規

センター日誌

CENTER EVENTS, April - May

4月

- 6日 ・ (行事) TA研修会
- 7日 ・ (行事) 新入生オリエンテーション
- 8日 ・ (行事) 入学式
- 9日 ・ (行事) 学部ガイダンス
- 12日 ・ 第1学期授業開始
- ・ (会議) AO入試委員会
- 17日 ・ キャンパスツアー(留学生)
- 21日 ・ 北大説明会(旭川北高校)
- 23日 ・ (会議) 第55回全学教育委員会
- 27日 ・ (会議) 第1回センター教官会議
- ・ (会議) 第1回センター長連絡会
- ・ 北大説明会(滝川高校)
- 28日 ・ (会議) オープンユニバーシティ・体験入学担当教員連絡会議

5月

- 12日 ・ キャンパスツアー(旭川北高校)
- 13日 ・ (訪問) 茗溪学園高校
- ・ (訪問) 余市西中学校
- 15日 ・ 第1回市民向けキャンパスツアー
- 17日 ・ (会議) 北海道進学コンソーシアム実施委員会
- 18日 ・ (会議) 第30回生涯学習計画研究委員会
- 22日 ・ キャンパスツアー(愛媛県立松山北高校)
- 25日 ・ (会議) 第112回全学教育委員会小委員会
- ・ (訪問) 岐阜県立多治見高校
- ・ センターニュース第53号発行
- 27日 ・ (会議) 第2回センター教官会議
- ・ (会議) 第2回センター長連絡会
- 31日 ・ 北大説明会(北嶺北高校)

行事予定 SCHEDULE, July - September

	【日(曜日)】	【行事】	【備考】
7月	27(火) ~ 28(水) 及び30(金) 30(金)	補講日 第1学期授業終了	
8月	2(月) ~ 12(木) 13(金) ~ 17(火) 13(金) ~ 9月30(木) 26(木) 正午	定期試験 追試験 夏季休業日 定期試験及び追試験成績提出締切	
9月	中旬 ~ 下旬 27(月) ~ 30(木)	進級判定及び学科等分属手続 集中講義期間	当該学部
10月	1日(金)	第2学期授業開始	

センターニュース 2004, No. 54 目次

巻頭言 大平 具彦 1	生涯学習フォーラムが開催されました 10
全学教育委員会報告 4	ひろがる好奇心・あふれる可能性 オープンユニバーシティ・体験入学の冊子 11
成績評価分布状況の公表および 極端な片寄りのチェックについて 6	高校生の全学教育科目の聴講にむけて 高大連携科目に関する研究会 11
グループ討論でケーススタディ 新任教員研修会行われる 6	本年度の北大セミナー実施計画固まる 12
平成16年度高等教育開発研究部研究員名簿 .. 8	平成16年度入学者選抜企画研究部 研究員名簿 12
客員教授にコマースさん着任 9	センター日誌 13
北大で大学教育学会第26回大会 9	行事予定・目次・編集後記 14

編集後記

全学教育に「北海道大学の人と学問」という学生に人気のある500人規模の授業があります。この授業には、良くも悪くも今の大学生の姿が反映されています。大部分の学生は真面目に講義を聞こうとしていますが、一部の学生は私語をやめなかったり、(講師に向かって後ろ向きに)床に座ったりします。全体として無秩序で無表情なマスのように見えますが、その実、きわめて敏感に講師の態度や話に反応する集団でもあります。そのダイナミクスを理解することが大規模授業を成功させる鍵と言われてはいますが、それに成功したとしても、500人の関心を集中させるのは45分が限界であることも良く知られています。(杜)

センターニュース 第54号

(北海道大学高等教育機能開発総合センター広報誌)

発行日: 2004年6月30日

発行元: 北海道大学高等教育機能開発総合センター

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目

電話 (011)716-2111・FAX (011)706-7854

編集委員: 小笠原正明・西森敏之・細川敏幸・

町井輝久・安藤厚・山岸みどり・鈴木誠・

池田文人・亀野淳

ご意見、お問い合わせは 印の編集委員まで

電話: (011)706-7514; FAX (011)706-7521

インターネット ホームページ: <http://infomain.academic.hokudai.ac.jp/center>